

「蓋井島 県指定ヒゼンマユミ群落自生地保全活動」

活動概要	ヒゼンマユミ群落地に、近年、モウソウ竹が周辺から侵入し、竹林化しているため、繁茂しているモウソウ竹を伐採する。
日時	平成 20 年 10 月 11 日 (土)
場所	下関市蓋井島笠松
参加者数	25 名
共催者	山口県自然観察指導員協議会

1 日程

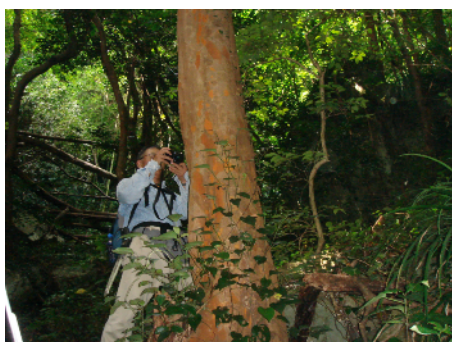
- 8:15 吉見港集合
- 8:30 吉見港発 (蓋井丸)
- 9:05 蓋井漁港着
- 9:15 開会式及び蓋井島のヒゼンマユミほかの植生についての学習会
- 10:00 伐竹方法についての説明後、作業班を編成して伐竹現場へ向け出発
- 11:30 途中珍しい樹木等を観察しながら現場着、昼食
- 12:00 伐竹作業開始
- 14:10 伐竹作業終了
- 15:00 漁港着
- 15:50 蓋井漁港発
- 16:30 吉見港着 17:00 解散



2 活動内容

(1) 学習会 (田辺指導員より解説)

蓋井島の周辺には対馬暖流が流れているため、植生は亜熱帯のものが多く、ヒゼンマユミもそのうちの一つ。ヒゼンマユミのヒゼンは肥前(長崎県)のことで主に九州に分布しているが、蓋井島のように群落になっているのは珍しい。また、キンショクダモという珍しい植物が一緒にあるのも特色。さらに日本の自生地としては北限。ヒゼンマユミの葉っぱはみかんによく似ており、実は大きく丸く黄色い。時期的に今はないと思うが、木によって違うのであるかもしれない。ここには、幹回り 1.8m の大きなものがある。



バクチノキ

こういった貴重なヒゼンマユミだが近年竹林化して、群落地が危なくなっている。竹を無くすには3年かかると言われているので地道にやっていきたい。(伐竹場所に行く途中も樹木等について随時解説あり)



(2)保全活動(伐竹)

漁港から群落地までの距離は直線で約1.4km。途中までは、コンクリート舗装がしてあるが、徐々に道が細くなり、人ひとりがやっと通られるような道を歩いてようやく群落地に到着。

到着後、まず昼食(斜面になっているため、座る場所の確保に一苦労)を摂り作業開始。



伐竹作業は、次の要領により行われた。

道路から上の斜面の竹を伐採する作業は、班単位で行い、班の作業範囲は約30m

伐採した竹は必ず横に積む(葉も同様)



竹がモウソウ竹で太く長い上に、枯れた竹が大量にあったため、作業には時間がかかった。約2時間で伐竹できたのはそれぞれの班で、上方向に20m程度。

しかし、伐採した箇所では光が差し込むようになった。

山口県自然観察指導員協議会では、今年度中に再度同様の作業を実施したいとのことであった。

